



トノサマバッタ（荒川河原にて撮影）

かわはく No.75

CONTENTS

開催報告：令和4年度秋期企画展 「かわはくで生きものを探せ！」	2
開催予告：冬期企画展「土ウォッチング」	3
開催報告：かわはくハロウィンウィーク	4
開催報告：かわはく寄席「川にまつわる落語会」	4
展示紹介：蔵出しコーナー「絵馬に見る川と暮らし」	5
展示紹介：デジタルサイネージって何？	6
学芸員コラム：出張授業について	7
イベント情報コーナー 12・1・2・3月	8



開催報告

令和4年度秋期企画展

「かわはくで生きものを探せ！」

開催期間：2022年9月23日（金・祝）～11月27日（日）

当館は埼玉県寄居町を流れる一級河川荒川に面して立地し、住宅地や商業地の近隣でありながら、様々な生きものを観察することができます。広い敷地内は河原、河畔林、斜面林など多様な環境に囲まれ、夜間には人知れず活動している生きものも多く確認されています。当館とその周辺で確認された数ある動物たちの中から、特に魅力的な生きものたちをピックアップして紹介しました。



本館などの建物のまわり、野外展示、ファミリー広場、駐車場などの来館者が利用するエリアでも、鳥類や昆虫などは昼間でも数多く観察できます。また、人気のない夜は建物付近の外灯に集まる昆虫やカエルがみられ、剥製などの標本で紹介しました。ちょうど本企画展開催中の季節は、駐車場や広場で大型のバッタであるトノサマバッタを数多く観察することができるので、10月8日には駐車場で観察会「大きなトノサマバッタを探せ！」を開催し、活動しているバッタやカマキリを参加者に紹介することができました。

トレイルカメラによる映像でも紹介しました。昆虫は本当に数多くの種が観察されるため、ほんのわずかの紹介になりましたが、テーマを絞って知名度の高い種を標本で紹介しました。例えばクワガタムシやカブトムシは、斜面林の樹液に集まる昆虫としてカナブンなどとともに紹介しました。また、駐車場で見られる大型のバッタ・カマキリとして、トノサマバッタ、ショウリョウバッタ、オオカマキリなどを紹介しました。

本企画展のサテライト展として、当館の敷地内を横断して流れる小河川「宮川」に注目し、本企画展ではあまり取り上げていない水生生物にスポットを当てて写真や標本で紹介しました。また、宮川は学校の学習活動や教職員の研修の場としても活用されることから、高校生の部活動による生きもの調査の様子も紹介しました。

セグロセキレイ



昆虫は本当に数多くの種が観察されるため、ほんのわずかの紹介になりましたが、テーマを絞って知名度の高い種を標本で紹介しました。例えばクワガタムシやカブトムシは、斜面林の樹液に集まる昆虫としてカナブンなどとともに紹介しました。また、駐車場で見られる大型のバッタ・カマキリとして、トノサマバッタ、ショウリョウバッタ、オオカマキリなどを紹介しました。

本企画展のサテライト展として、当館の敷地内を横断して流れる小河川「宮川」に注目し、本企画展ではあまり取り上げていない水生生物にスポットを当てて写真や標本で紹介しました。また、宮川は学校の学習活動や教職員の研修の場としても活用されることから、高校生の部活動による生きもの調査の様子も紹介しました。

本企画展のサテライト展として、当館の敷地内を横断して流れる小河川「宮川」に注目し、本企画展ではあまり取り上げていない水生生物にスポットを当てて写真や標本で紹介しました。また、宮川は学校の学習活動や教職員の研修の場としても活用されることから、高校生の部活動による生きもの調査の様子も紹介しました。

本企画展のサテライト展として、当館の敷地内を横断して流れる小河川「宮川」に注目し、本企画展ではあまり取り上げていない水生生物にスポットを当てて写真や標本で紹介しました。また、宮川は学校の学習活動や教職員の研修の場としても活用されることから、高校生の部活動による生きもの調査の様子も紹介しました。

（研究交流部 藤田宏之）

アズマヒキガエル



アズマヒキガエル

関連イベント

観察会「大きなトノサマバッタを探せ！」

親子向けのイベントとして開催しました。当館の広い駐車場でトノサマバッタを捕まえて、大きさを競いました。トノサマバッタはもちろんのこと、大きなショウリョウバッタやオオカマキリも多くの参加者が捕まえ、参加者は親子一緒になってバッタを追っていました。天気も良好で、とても盛り上がったイベントとなりました。





開催予告

冬期企画展 「土ウォッチング」

開催期間：2023年1月21日（土）～3月5日（日）

次の企画展は「土ウォッチング」。土は当たりまえすぎて、あるいは普段は見えない地面の下にあるので、じっくりと考えたり眺めたりしたことがないかもしれません。しかし、私たちが食べていくためには、つまり生きていくためには、土は欠かせない存在です。今回の企画展では、色々な角度から土を紹介したいと思います。

展示では、まず土はどこにあるのか、土とは何かをモノリスという土の標本などを用いて解説します。下の写真は今回の企画展のために調査を行った、大根畑の土の断面（土を掘って横からみた面＝土の横顔）の写真です。土は森の草木や畑の作物を育てる力をもちます。この力が土の本質といってもよいでしょう。展示ではこの調査地の断面をモノリスにしたものも展示予定ですのでお楽しみに！



畑の土にニョキッと大根（小川町）

次に土ウォッチングの基本、土の調査の方法や土の断面の見方を調査道具や実際に調査をしている動画などを用いて紹介します。

また、土を見るとその土地の歴史や履歴がわかることもあります。例えば火山噴火によって降り積もった火山灰から出来た土からは、火山灰がどのくらい降り積もったのか、その土が何年でどのくらいの厚さになっているか、などがわかることがあります。あるいは今は畑として使われている土地が昔は水田であったことがわかることも。川の博物館は2019年の令和元年度東日本台風で敷地の一部に土砂が積もりましたが、敷地内の林の下の土を見ると、どのくらいの大きさの砂粒が、どのくらいつもったのか、その前の地面の様子と

共に知ることができます。この土の標本も今回採取して初公開する予定です。



2019年に堆積した土砂（破線より上30cm）

さらに土を見るには……、土の様子を視覚的に見るために土を固めて薄くスライスした「土壌薄片」で土を見る方法があります。向こうが透けて見えるくらい薄く切った薄片で土を見ると、土の粒がどのような形や大きさなのか、どのような大きさの根がどのくらいあるか、すきまがどのようにつながっているのかなど、断面観察や化学的分析ではわからないことが見えます。

さて、一見地味な土には大切な役割があるのですが、その役割や仕組みを理解するために注目されるのが「土壌団粒」です。土が粒として塊になっているものですが、このひとつひとつが小さい粒にとっても大切な秘密が隠されています。この団粒について、最先端の技術を用いた映像も用いて解説します。

そして、土を見るときに必ず目につくのが土の中の生きもの。土の中は生きものの宝庫。概ね大きいものからモグラ、ムカデ、ミミズ、ダンゴムシ、トビムシ、ダニ、クマムシ、菌類、細菌類……。同じ面積で比べると地上よりも地下の生きものの方が多い（体重ベース）と言われ、実は生きもの多様性がとても高い場所なのです。土の中の生きものは、写真や模型などで紹介するとともに、そんな土の中の生きものを直接食べている生きものたちも紹介します。

他にウクライナの土、福島県の土の現状をウォッチするトピックも予定しています。この機会にぜひ土を見に来てください！（研究交流部 森圭子）



開催報告

『かわはくハロウィンウィーク』

開催期間：2022年10月22日（土）～30日（日）

2022年10月22日（土）から30日（日）にかけて、かわはくハロウィンウィークを開催しました。（イベントの中心は22日、23日、29日、30日の両週末4日間）。

ここ数年のコロナ禍においても、感染症対策を行った上で例年開催しているかわはくハロウィンイベント。リバーホールの装飾や、この日ばかりはスタッフも仮装をして盛り上げに一役担いました。また、来館された方もさまざまな仮装で私達スタッフを楽しませてくれました。

イベント内容は今年もスタンプラリー形式で、スタンプ5つ以上でプレゼントのスタイルで実施しましたが、ほとんどの方が全てのスタンプを集めていただき、ハロウィンイベントを楽しんでいただけたようでした。また、来年度以降も来館者の方に楽しんでいただけるようなイベントを提供できるよう努めてまいります。来年度もお待ちしております。（交流員 神保敏子）



ハロウィン記念写真



今年のハロウィンイベントの様子

開催報告

かわはく寄席『川にまつわる落語会』

開催日：2022年10月9日（日）

落語家の入船亭扇蔵さんを招いて10月9日（日）に落語会を行いました。3年前から開催しているこの“かわはく寄席”は川の博物館らしく、『川にまつわる落語会』として川が出てくる落語を中心に行っています。また、午前を子供向き、午後を大人向きに分け、2回行っています。午前の子供向きの会では落語初心者のために、初めに落語の歴史について、そして落語特有の扇子や手ぬぐいを使ってする「たばこを吸う」「筆で文字を書く」などの仕草の他、『八つつあん』など登場人物、昔のお金の単位についてお話をしました。その後、『初天神』と『目黒のさんま』の二席を話しました。午後の大人向きの会は、『辰巳の辻占（たつみのつじょう）』『愠気の独楽（りんきのこ

ま）』の二席を話しました。午前午後とも大勢のお客様に来ていただき、「とても面白かった」「毎回参加しています、来年も楽しみにしています」と喜んでいただけました。

（広報企画担当 若目田葉子）





展示紹介

蔵出しコーナー「絵馬に見る川と暮らし」

展示期間：2022年9月7日（水）～2023年2月初旬（予定）

寺社に奉納された絵馬の中には、大きな額に人々の生活や生業の場面を描いたものがあります（これを大絵馬と呼んでいます）。今回はそれらの中から、当館オープン時に製作した3点の複製資料を展示してみました。複製にあたっては原資料を忠実に模写する方法と、退色や剥落を補って当初の状態に戻して製作する方法とがあります。展示では複製絵馬の脇に原資料の写真パネルを添えることで両者の比較ができるようにしてみました。

なお、原資料は地元の神社拝殿内などに保管されているため、普段は目にする事ができません。3点とも埼玉の川と暮らしの様子をうかがうことのできる絵画資料ですので、複製ではありますがじっくりとご覧いただけます。



◎権現堂堤修復絵馬（複製）

明治28年（1895）に幸手市北三丁目の熊野神社に奉納されたもの。権現堂堤はかつて利根川の派川だった権現堂川に築かれた堤防です。明治時代半ばの大洪水で被害を受け、修復工事が完了した記念に奉納したものと思われます。紅白の旗を掲げた小屋で監督する内務省の役人の前で、大勢の人たちが工事にあたり、画面奥には利根川と権



現堂川を行き来する船も数多く描かれています。

※原資料は幸手市指定有形民俗文化財

◎商家河岸場の図（複製）

明治23年（1890）に吉川市高久の蕎高神社に奉納されたもの。中川の中曽根河岸で材木商を営む鈴木家の様子です。船大工や木挽きなど総勢60人近い職人や商人が生き生きと描かれ、河岸には荷下ろししている荷船も見られます。ケヤキの1枚板に金粉があしらわれており、当家が繁盛していたことがうかがえます。

※原資料は吉川市指定有形文化財



◎新川早船絵馬（複製）

明治6年（1873）に行田市下忍の琴平神社に奉納されたもの。新川は現熊谷市にあった新川河岸のことです。帆を張った荷船と河岸問屋が描かれ、船内には船頭と荷物のほかに乗客の姿も見られます。早船は江戸東京への急行便で、奉納者には群馬・栃木・茨城・千葉各県の舟運関係者の名前があり、商売繁盛と舟運安全を祈願して奉納したものと思われます。

※原資料は行田市指定有形文化財で、現在は行田市立博物館で保管。



（研究交流部 大久根 茂）



展示紹介

デジタルサイネージって何？

本館1階第1展示室で、このような装置を見たことはありませんか？ タッチパネル式の端末で、正式名称は「デジタルサイネージ」といいます（以下、本記事ではサイネージと記載します）。

このサイネージ、タッチパネルを連打しすぎると動作しなくなってしまうことが玉にキズですが、荒川について紹介するためのたくさんのコンテンツが収録されています。

例えば、学芸員が展示だけでは紹介できなかった部分を紹介するもののほか、デジタルだからこそ紹介できる動画もあります。

本記事では、そんなサイネージに収録されているコンテンツを一部、紹介します。

まず、最初に紹介するのは荒川についての情報がつまったコンテンツです。荒川について簡単な紹介をしている「荒川はどんな川？」のほか、荒川の源流を紹介する「甲武信岳と3河川の源流」があります。こちらは動画なので、写真では紹介しきれない源流付近の川の流れや、源流点近くにある山小屋の煙突から出る煙の動きなど、実際に荒川の源流を訪れた気分で見ただけのものとなっております。

ほかにも、当館の台風被害を収めた動画が収録されている「令和元年度東日本台風の猛威 川の博物館の被害状況」もぜひ観ていただきたいコンテンツの一つです。令和元年度東日本台風の被害について写真や動画で紹介しています。

当館の浸水被害状況の写真のほか、翌日以降の水が引いた後のかわはくの様子を紹介した写真も掲載されています。さらに、写真だけにとどまらず、かわはくの敷地が浸水してゆく様子収めた動画も掲載しています。わずか数時間で水に浸かっていく様子を観ていると、水の恐ろしさを感じるとともに、そうなる前にいつ、どうやって避難すべきか考えさせられてしまう動画でもあります。

上記で紹介したコンテンツのほか、楽しみながら学べる「荒川の石（小学生向け）」なども収録されていますので、学校での社会科見学など校外学習、家族で来館された際など、どのような場面

でも、どなたでもご利用していただけるかと思えます。写真や動画を中心として構成しているので、ぜひタッチパネルにお手を触れていただけたら幸いです。（研究交流部 室井美穂）



デジタルサイネージ



荒川源流について紹介する動画



令和元年度東日本台風の被害状況について紹介する動画



小学校第4学年『地面をつくる土の粒と雨水の行方』の出張授業を実施しています！

令和2年度から全面実施となった現在の小学校学習指導要領では、第4学年に新しい単元『雨水の行方と地面の様子』が入りました。この単元では、「水は、高い場所から低い場所へと流れて集まること」「水のしみ込み方は土の粒の大きさによって違いがあること」を学びます。この単元の、水のしみ込み方と土の粒の大きさとの関係について出張授業として実施しているので、ご紹介します。

実験の結論としては、土の粒が大きいほど水のしみ込みは速い、ということになります。教科書に載っている実験方法はだいたいどの学校にもある砂利、砂、グラウンドの土を用いることが多く、粒の大きさとしみ込みの速さはこの順になります。しかし、現実の地面は単純な粒の大きさで分けられるものではなく、ここで用いる材料（砂利、砂、グラウンドの土）でできている地面は多くはありません。出張授業では、3つの材料に加え、荒木田土という市販されている粘土質の土と、花壇あ

るいは畑の土を使います。授業ではまずこれらの土をそのまま目で観察すると共に、ボトルに材料と水を入れて振り交ぜたものを観察します。これで粒の大きさをよく確認することができます。観察を基に実験の予想をたてたら、水のしみ込む速さを、ペットボトルなどを使って実験します。目で粒の大きさがわからないほど小さな粒の多い荒木田土はしみ込みがととてもゆっくりで、このような粘土質の土の水のしみ込みの遅さは田んぼに水がためられる理由でもあります。花壇や畑の土のしみ込みの速さは、砂やグラウンドの土と良い勝負。また、授業では水のしみ込み方に加えて、どのくらい水が土に残ったか、ということも調べます。これは土の粒の大きさと逆の順になるのですが、それだけではないかも……。単純な土の粒の大きさだけではない、土の大切な役割にふれつつまとめのお話をします。興味がわきましたらぜひ一度お声がけください。（研究交流部 森圭子）

小学校第5学年『流れる水のはたらき』の出張授業も実施しています！！

当館では毎年、特に9月から11月にかけて数多くの出張授業（体験授業）を行っています。特に依頼件数が多いのが、当館が川に関する博物館ということもあってか、5年生の理科の単元「流れる水のはたらき」に関するものです。

この出張授業は、学校の砂場に山を作って水を流し、3つのはたらきについて知ってもらおう実験の時間と、写真を見せながら実際の川の様子を知ってもらおう、まとめの時間から構成されています。

この単元では、川の3つのはたらき、浸食（けずる）・運搬（はこぶ）・堆積（つもらせる）について学びます。「はたらき」という言葉は、平仮名なので、一見すると簡単そうな言葉に見えるのですが、意外と難しく、そのため私は「川が3つのお仕事をしている」と言い換えて、説明するよう心がけています。

また、この単元の依頼件数が多い理由としては、①子ども達にどう教えていいかわからない、②学

校に教える教材が少ないといった理由も考えられます。

また私自身もそうだったのですが、今勉強している内容が自分の生活とどう関係しているのかがなかなか見えてこない単元の1つだと思います。

その解決策として、私は説明の中に学校の周辺を流れている川（近くに川がない場合は学校のある市町村内を流れる一番大きい川）を取り入れ、この川のまわりで川の3つのはたらきがわかる場所の紹介や、小学5年生には少し難しいかもしれませんが、小学校の周辺の地形が、川の3つのはたらきに由来するものもあるといった説明を加えています。こうすることで、今勉強していることが、自分の生活と関係している、ということを知ってもらえたらいいな、と思っています。

もし、この記事を読んで、出張授業に興味を持ってくれた方がいらっしゃいましたら、ぜひ当館までご連絡ください。（研究交流部 羽田武朗）

12月

12/16/金～12/28/水

連携展「荒川版画コンクール」

12/3/土～12/25/日

かわはくライトアップ

時間：夕方～17:00

内容：日本一の大水車や、大陶板画、大模型などを照らします。この季節だけのお楽しみです。

3/土

かわはくであそぼうまなぼう

「世界土壌デー記念」土でアート作品づくり

時間：13:30～15:30

内容：12月5日は「世界土壌デー」。土の色をいかして作品を作ります。

4/日

かわはく体験教室「和紙を使った凧づくり」

時間：13:30～15:30 定員：16名 ☺

内容：正月を前に、竹ひごと和紙を使って凧（角凧）を作ります。「かわはく」で季節を楽しむ～水引でクリスマスツリーをつくる!～
時間：①11:00～12:00 ②13:30～14:30
定員：各回12名 ☺

内容：水引を使って、高さ10cmになる立体のクリスマスツリーを作ります。

11/日

かわはく子ども交流員

時間：13:00～14:30

内容：かわはくスタッフのお仕事を体験してみませんか。

18/日

かわはく研究室「水害について考える」

時間：13:30～15:30

内容：荒川大模型173を使用して、近年の水害について考えます。

27/火

モノづくりを楽しみながら学ぶ「ミニ門松作り」

時間：①10:30～12:00 ②12:30～14:00
③14:00～15:30

定員：各回10名 ☺

内容：かわはくに生えている竹を使用して、部屋に飾る高さ30cmほどのミニ門松を作ります。小川町で作られる手漉きの和紙を使って鉢をラッピングし、水引の飾りやミニ畳も作ります。

2月

4/土

かわはく体験教室「石図鑑づくり」

時間：13:30～15:30 定員：8組 ☺

内容：荒川のかわせみ河原で石を集めて、石の実物標本図鑑を作ります。

5/日

「かわはく」で季節を楽しむ

～春をかざろ! カワシロウのおひな様作り～

時間：①11:00～12:00 ②13:30～14:30

定員：各回12名 ☺

内容：ソフト粘土で、両手に乗るカワシロウ雛を作ります。

11/土・祝

冬期企画展関連イベント「展示解説」

時間：①11:30～ ②14:00～

定員：各回10名程度

内容：展示の内容を担当学芸員が解説します。

18/土

モノづくりを楽しみながら学ぶ

「プログラムして走らそう!～電気で動くモノづくり～」

時間：①10:00～ ②12:00～ ③14:00～ (各回60分程度)

定員：各回10名程度

内容：ロボットや電気についての科学的なお話を、幼児から大人まで楽しめるように、わかりやすく楽しく「パネルシアター」を使って説明します。その後、実際に、車型ロボットキットを組み立て、自分で作ったプログラムで走らせます。

19/日

かわはく研究室「土のはたらき」(冬期企画展関連イベント)

時間：13:30～15:30

内容：土は縁の下の力持ち。土の果たす役割について簡単な実験をしながらお話します。

2023

1月

1/21/土～3/5/日

冬期企画展「土ウォッチング」

4/水

「かわはく」で季節を楽しむ 干支飾り作り

～手のりうさぎをつくる!～

時間：①11:00～12:00 ②13:30～14:30

定員：各回12名 ☺

内容：羊毛フェルトで、手のりうさぎを作ります。

5/木

かわはくであそぼうまなぼう「お正月あそび」

時間：①10:00～12:00 ②13:00～15:00

内容：お正月の伝統遊びを体験できるコーナーを作ります。

8/日

かわはく子ども交流員

時間：13:00～14:30

内容：かわはくスタッフのお仕事を体験してみませんか。

「かわはく」で季節を楽しむ～カワシロウ達磨をつくる!～

時間：①11:00～12:00 ②13:30～14:30

定員：各回12名 ☺

内容：手漉き、手染めの和紙で、15cm程のカワシロウ達磨(だるま)を作ります。

15/日

かわはく体験教室「木の実アート」

時間：13:30～15:30

定員：15名 ☺

内容：木の実など自然素材を材料にしたクラフト製作教室です。

かわはく研究室「年輪を調べよう」

時間：13:30～15:30

内容：木の年輪はどうしてできるのか。年輪を見ると、いろいろなことがわかります。木を切らないで樹齢を調べる方法もあります。

28/土

冬期企画展関連イベント「展示解説」

時間：①11:30～ ②14:00～ 定員：各回10名程度

内容：展示の内容を担当学芸員が解説します。

29/日

かわはくであそぼうまなぼう「かわはくでまめまき」

時間：①11:00～ ②14:00～

内容：ワークショップでマスをづくり、上記の時間にまめまきをします。

3月

3/25/土～6月下旬

春期企画展「荒川今昔写真展(仮)」

4/土

冬期企画展関連イベント「土は生きている?」

時間：13:30～15:30 定員：随時5名ほど

内容：「土は生きている」ってどういうこと? 土の中の生き物を紹介しながら土が生きている証拠を探ります。

5/日

かわはく研究室「液状化実験」

時間：13:30～15:30

内容：地盤の液状化の仕組みについて学びます。

11/土・

25/土

同一内容

荒川ゼミナール 川を知るウォーキング

「入間川を歩く4～旧堤と水神様をたどる～」

時間：10:00～16:00 定員：20名 ☺

内容：入間川流域の古い堤防や各地に勧請された水神様を巡ります。(25日と同じ内容です)

18/土

荒川ゼミナール 源流を訪ねる「西川林業地の山歩き」

時間：9:00～16:00 定員：15名 ☺

内容：吾野駅～吾野宿～顔振峠～ユガテ東吾野駅のコースを歩きます。

25/土

かわはく体験教室「液体窒素実験」

時間：①10:30～11:30 ②13:30～14:30

定員：各回15名まで ☺

内容：-196℃の液体窒素をつかってモノの状態を体験・観察しよう。

26/日

かわはくであそぼうまなぼう「石積み挑戦」

時間：13:30～15:30

内容：荒川の石を高く積み重ねながら、石の特徴を学ぼう。

ホームページでも紹介しています!

<https://www.river-museum.jp>

【お願い】①イベントは諸事情により変更になることもあります。ご了承下さい。②☺印のついた行事は事前申込みが必要です。費用に「保険料」が含まれるイベントの申込締切日は、各イベント開催日の2日前までです。③定員になり次第締め切ります。

編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地
TEL/048-581-8739(研究交流部) FAX/048-581-7332
ホームページのフォームからお問い合わせいただけます。



2022年11月30日発行

